

えこちゃんくらぶ



2020年2月吉日

こ-ろ-き-ふ えこちゃんくらぶ 発行

「プラスチックゴミ」について

学習してきました!!



2020年の取り組みについて、えこちゃんくらぶのスタッフからこんな意見が…
 三重県・志摩島の奈佐の浜は、漂流ゴミのホットスポットになっており、
 多い時は1メートル以上堆積することもあるそうです。
 ということで、四日市大学の千葉先生に「プラスチックゴミ」について、
 お話を伺うことになりました。

知らないことが多いので
 専門家に話が
 聞けるといいね



千葉 賢 (ちば せとし)
 四日市大学環境情報学部
 学部長 教授 工学博士

2003年より2007年まで、三重県地域結集型共同
 研究事業「閉鎖性海域の環境創造プロジェクト」の
 環境動態シミュレーション部門の研究リーダーを務める。
 2016年より、現在まで三重県と共同で伊勢湾の
 貧酸素水塊発生問題と漂流漂着ゴミの問題の
 研究を続けている。

<千葉先生のお話>



・主な研究は「海流」です。22年前に伊勢湾の研究で、水産資源の減少と貧酸素は水質に原因があるのでは？と考えるようになり、それと並行してプラスチックについても研究を始めました。

・海ゴミの8~9割は流木などの自然ゴミで、1980年代~極端に増加しました。2019年の台風の後には、漁業用の網が漁船のスクリーンに絡まったり、流木が漁港を埋め尽くして暫く漁ができないうまじりました。海岸線のゴミの撤去には億単位の費用が掛かります。

・何かしようとしても、原因や現状がわからないと対策ができません。このゴミがどこから来るのかも現場(現物)からだけでは推測することが不十分なため、コンピュータでシミュレーションして、その結果を情報発信しています。

・海岸のマクロプラスチックは1m²に6万個という調査結果もあり、石油化学工場から出るレジンペレット(プラスチックの素)も多いです。成分を調べると、ビコのメ-カ-のものかわかります。

・地域別に見ると、

伊勢湾北…徐放性肥料(肥料をプラスチックでコーティング)。水田には不可欠)

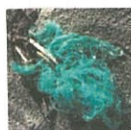
伊勢湾南…発泡スチロールや養殖筏のフロート(浮き)。放置され砕ける)

成分としては、

海底…化学繊維

水面…ポリエチレン、ポリプロピレン

海岸…発泡スチロール



弁当箱などの使い捨て容器、また河口付近は捨てたばかりのレジ袋が多いです。レジ袋は海に出ると、藻などのゴミが付着して海面には浮かばずに、海の中層部で浮遊します。

・陸からのプラスチックゴミは年間約800万トンとされていますが、実際には海にありません(ミッシングプラスチック)。マイクロ化しているのが、分解されていない古い物もあり、これがビコへ行くのかもわかっていません。

・ペットボトルは強くてなかなか分解されず、マイクロ化はしませんが、そのこと自体も問題です。プラスチックゴミがどこからどうやって出てきているのかも調査中です。

・プラスチック自体は摂取したとしても胎内も通過して排出されるので、重大な健康被害はありませんが、問題視されているのはプラスチックの毒性です。ある種のプラスチックには、難燃性・抗酸化性などの機能性を持たせるために添加剤を使用しているため、それが環境やホルモン系に害を及ぼすのではないかと懸念されています。

・親油性・疎水性のプラスチックは、海を浮遊する間に有害物質も融着するのび、それを食べた海洋生物が体内に蓄積します。マイクロプラスチックはプランクトンも食べるので、結果的に生態系全体が取り組んでしまいます。そのことが2000年頃から話題・重要視されるようになりました。

・プラスチックゴミについて関心を持って考えてもらうきっかけとなる「砂浜でマイクロプラスチックを探そう」「22世紀・奈佐の浜プロジェクト」も取り組んでいます。

・日本では6割りが使い捨てプラスチックです。使いやすさ、衛生面が重視されているので仕方ないことではありますが、作る側と使う側の双方が責任を持って対処しなければ、問題は解決しません。

<千葉先生からのメッセージ>



地球温暖化は現在の人類にとって最も深刻な環境問題ですが、一般人は相手が大き過ぎて、どの様に取り組んで良いかわかりません。日頃の省エネ、省資源などに気をつけるくらいしかできないでしょう。

一方我々が暮らす地域にも様々な環境問題が存在します。少し歩けば荒れた里山・竹林、外来植物の繁茂、河川敷や道路端に散らばるゴミ、汚れた用水路などに気付きます。

このような身近な環境問題であれば、我々が直接その解決に取り組むことが可能です。

一緒に地域の環境問題も考えてみませんか。(四日市大学ホームページ 職員紹介より抜粋)

<参加者の感想>



肥料のコートングにプラスチックが使われていると初めて聞いて驚いています。

岐阜は海無し県ですが、他人事ではないと感じました。生協も様々な商品を扱っているので、企業や組合員が何かアクションを起こせると良いですね。

学習用に「プラスチックゴミ」の紙芝居を作りたい!

漁業関係のゴミが多いということで、海で生計を立てている人たちが少なからず当事者になっていることがとても残念です。

洗たくでもマイクロプラスチックが発生することも、新聞で読みました。自分が気をつけている所だけでは不十分なのかもしれないと思いました。

講演や現地見学など、子どもたちにどういった形で知らせたら良いかを考えていきたいです。

くらしを見つめ直すきっかけになりました。知ること・行動すること・知らせること大切だと思いました。

